

第2回 西脇市立学校学習環境規模適正化地域会議（西脇中学校区） 意見概要

テーマ：①望ましい学習・生活集団規模について ②望ましい指導体制について

【A グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各1～2名

No	意見
テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について	
01	国が示す学級規模・学校規模の標準は、小学校 35 人学級、中学校 40 人学級となっている。
02	国が示す学校規模の標準は、小中学校とも 12 学級～18 学級規模となっている。
03	子どもの人数が減少すれば学級数が減少し、先生の人数も減少する。
04	これからの人数の変化を見ていく必要がある。
05	今後、子供数が益々減少することになれば、統合することも検討する必要がある。西脇小を残すのであれば、日野小は西脇小に統合することを想定する等、ゴールを決めておくことも重要。
06	西脇市として、今後の子ども人数減少を踏まえて、学校の再編案を出して欲しい。
07	大人の世代間の違いによって、考え方・重視したい点などが異なる。
08	子育て世代からすれば、クラス替えができる規模を望む。
09	他地域の適正規模については、どうしても意見が出しにくい。
10	今の日野小規模（学級 25 名程度）は、上級生との交流もありいいのではないかと思う。
11	理想的な学級人数は 30 人程度、学年 2 学級程度が理想ではないか。
12	中学校の部活動については、このままでは厳しいのではないか。野球やサッカーなどの集団スポーツが維持できなくなる。（合同チームによる対応、クラブチーム入部等の方法もあるが。）

【B グループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各1～2名

No	意見
テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について	
01	日小では、各学年 1 学級 25 人程度。クラス替えの必要は余りないと感じる。
02	1 学級 25 人程度であれば、先生が子どもを見やすいし、人間関係が固定化されるデメリットも無いのではないか。
03	今後、更に大きく子どもの人口が減少すると、判断が難しくなる。（就学前の子どもを持つ保護者）
04	地域の思いとしては、学校を残したい。 合併して地域に学校が無くなると、行事ごとの運営が難しくなる。しかし、小規模化すると先生の人数も少なくなって学校教育の質が低下する。
05	子ども人数の平準化を図ることはどうか。
06	小学校 6 年間は、学年 1 学級（人間関係固定）となっても、中学校に進めば 1 学年 2 学級以上という環境はどうなのか。
07	学級の子ども人数が少ないということは、教員からみれば指導しやすい環境である。
08	地域に学校が無くなったら、登下校の問題や地域教育力の低下等を危惧する。
09	西小同様に、日小も残して欲しい。ただ、他の学校と同じレベルの教育ができるのか心配。
10	地域住民の声を十分聞いて欲しい。

【Cグループ】 地域代表・学校代表・保護者代表（就学前・小・中）各1～2名

No	意見
テーマ① 望ましい学習・生活集団規模について テーマ② 望ましい指導体制について	
01	クラスは複数必要ではないか。
02	1クラス20程度いた方がいいのではないか。
03	ある程度の児童がいた方が人と人の関わりやライバル心などが形成され、社会に出たときに役立つのではないか。
04	少人数では人間関係が固定されることで関係性が決まってしまう、何かがあったときに逃げ場がなくなってしまう危険性がある。
05	少人数でも、少人数であることで子どもの仲がさらに良くなる場合もある。
06	人間関係やコミュニケーション力は少人数でもできる。
07	少人数による教育を希望される場合は、小規模校という選択肢があってもよいのではないか。
08	小規模校の方が合っている子どももいれば、そうでない子どももいる。
09	小規模も大規模もそれぞれメリット・デメリットがあり、バランスが取れるような集団規模が望ましい。
10	英語等、教科学習においては少人数指導のメリットはある。ただ、教科学習以外の学習（人から体験的に学ぶ学習や考え方・生き方等を学ぶ学習は、ある程度の人数の中で揉まれないと学べない。
11	学校行事のことを考えると、ある程度の集団規模（学校規模）がないと厳しいように思う。
12	もし統廃合となった場合、子どもの登下校に不安がある。
13	今後の児童生徒数の現状を見ると、この先の状況にはかなりの危機感がある。